

講義コード	1051270001
講義名称	人権教育論A 01<春>
科目英文名	The study in education for human rights A
開講責任部署	共通教育機構（資格課程）
代表ナンバリングコード	0EDU2420
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 3時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
大北 規句雄

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① 行政職員として人権政策に関わってきた経験のある者が、その経験を活かして今日的な人権諸課題の概要や、問題解決に向けたアプローチ等の取組の紹介などを行う。	実務経験のある教員による授業② まちづくりコンサルティング会社の職員としての経験のある者が、その経験を活かして「地域共生社会」の取組概要やアプローチを紹介する。
------	----	--	---

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	部落差別撤廃の様々な取り組みや経験を通して差別の歴史や社会的役割を学び、日本における普遍的な人権の概念について検証する。また部落解放運動の中で取り組まれている「まちづくり」等「地域共生社会」を創造する実践についても学び、「人と人が豊かに繋がり、誰もがありのままに生きることが出来る新しい地域社会の再構築」とはどのようなものなのか検証し、教職を目指す学生が、人権問題を単に知識として得ることにとどまらず、当事者の創造的な実践に学び、自ら感じ、行動出来る想像力を養うこともこの授業のねらいとする。
学習（到達）目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 排除・忌避意識の社会的・歴史的背景を説明することができる。</li> <li>2. 様々な人権課題や差別問題の歴史的経過や、社会性を説明することができる。</li> <li>3. 差別解消のための様々な努力から学び、被差別当事者の思いをしっかりと受け止め、記述することができる。</li> <li>4. 上記1～3を踏まえ、自分の意見をしっかりと論理的にまとめ、記述することができる。</li> </ol>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	<p>(1) 講義ガイダンス・オリエンテーション</p> <p>①受講ルールの説明（受講にあたってのルールやマナーの説明） ②授業計画（授業日程や全15講の内容説明） ③評価基準の説明（単位取得について、評価方法の説明）</p> <p>(2) ワークショップ「人権はいま・」</p> <p>授業に入るまでの学習リードとして、現代社会における様々な人権概要についてクイズ形式で学ぶ。</p>
第2回	<p>人権概論（Ⅰ）</p> <p>「鬼と呼ばれた人、狐にされた人」</p> <p>①日本文化に現れる「隠し」の思想、②「穢れ」意識と差別の固定化への変遷の検証、③「暮らし」に根付く文化や伝統の意味</p>
第3回	<p>人権概論（Ⅱ）</p> <p>「排除・忌避の背景を検証する」</p> <p>①なぜ福祉は一部の「可哀想な人」の問題になったのか、②ジェントリ・フィクションとは何か、③都市の持つ「排除・忌避」の機能</p>
第4回	<p>部落問題論（Ⅰ）</p> <p>「部落差別とはなにか」</p> <p>①「部落」とは何か、「部落民」とは誰の事か？②いったい誰が規定してきたのか。③これら部落差別の歴史的起源と水平社創立以前の部落差別の検証を行い、日本の近代化以前の部落問題について検証する。</p>
第5回	<p>部落問題論（Ⅱ）</p> <p>「水平社とはなにか（水平社宣言を読む）」</p> <p>①水平社結成の歴史背景を検証する。②当事者運動としての「水平社」創立が意味するもの、③日本で最初の人権宣言である「水平社宣言」の中身を考察する。④水平社運動が与えた影響について考える。</p>

第6回	<p>部落問題論（Ⅲ）</p> <p>「戦後民主主義と部落解放運動」</p> <p>①オールロマンス事件（闘争）と行政責任論の登場、②日本の民主主義運動に部落解放運動が与えた影響。③戦後の部落解放運動の光と陰、④地域共生社会実現への挑戦</p>
第7回	<p>部落問題論（Ⅳ）</p> <p>「部落問題にかかわる諸理論の展開と論点」</p> <p>これまでの部落解放運動から生まれてきた様々な差別解消のための「理論」と「論点」を検証し、部落問題の複雑さや難しさについて理解する。</p>
第8回	<p>同和（人権）教育論（Ⅰ）</p> <p>「同和教育の歴史と実態から見えるもの」</p> <p>①同和教育の歴史と創り上げられてきた実践や経験の意味。②人権教育の「四認識論」に見る同和教育の発展。③今日的な人権教育の拡がり実践の検証。</p>
第9回	<p>同和（人権）教育論（Ⅱ）</p> <p>「意識化とは何か（文字を奪い返す取り組みから見えるもの）」</p> <p>①教科書無償闘争、②識字教室の営み、②奨学金闘争、③進路保障の取り組み等、を通じて教育とは何かを問い直す。</p>
第10回	<p>社会問題論（Ⅰ）</p> <p>「ネット社会における部落問題」</p> <p>①ネット社会における部落差別の現実。②情報流通プラットフォーム対処法（情プラ法）の制定をめぐって。③部落問題から見る「カミングアウトとアウトティング」。④アルゴリズムとフィルターバブル問題。</p>
第11回	<p>社会問題論（Ⅱ）</p> <p>「貧困・格差社会と部落解放運動の果たす役割」</p> <p>①被差別部落の今日の実態と差別解消の様々なアプローチ、②部落解放運動を支える社会的ネットワークの拡がりを検証する。③セツルメントと同和地区隣保館の意味。④同和地区の実践と国が目指す地域共生社会。</p>
第12回	<p>地域共生論（Ⅰ）</p> <p>「部落解放への展望を探る（被差別部落が目指した人権のまちづくり）」</p> <p>①部落のまちづくりをめぐる4つのチャンス、②各地で取られる「人権のまちづくり」へのチャレンジを検証する。③ソーシャルキャピタルとは何か。</p>
第13回	<p>地域共生論（Ⅱ）</p> <p>「国が目指す地域共生社会の意味とは」</p> <p>①2000年福祉の基礎構造改革の意味、②2018年社会福祉法の改正と「地域共生社会」の創造、③地域共生社会を実現するためには</p>
第14回	<p>地域共生論（Ⅲ）</p> <p>「人権の新しい概念の創造に向けて」</p> <p>①グローバル概念とは何か、②拡がる人権の概念、③グローバルコンパクトとSDGs。④「人権デューデリジェンス」とは何か。⑤「アンコンシャス・バイアス」、「マイクロ・アグレッション」、「ポリティカル・コネクトレス」とは何か。</p>
第15回	<p>課題設定のテストおよびまとめ</p>

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	35%
レポート	65%
その他	

成績評価の方法（コメント）	<p>①最終試験において、到達目標に対応するテーマに関する論述問題出題する。授業での内容やオリジナリティなど自身の意見が論理的に述べられているかを重点に評価する。</p> <p>②毎回授業のふりかえりとして、授業内容が理解されているかを判断するための小レポートを実施する。</p> <p>③欠席が全授業の3分の1を超えると単位を認められないことがある。</p>
---------------	--

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	大北規句雄	隣保館「まちづくりの拠点として」	大学オンライン販売	978-4-7592-1029-3	解放出版社	
2.		大阪の部落解放運動「100年の歴史と展望」	大学オンライン販売	978-4-7592-4233-1	解放出版社	
3.						授業時に「レジュメ」と参考資料を配布します。

参考文献	「改訂：戦後同和教育の歴史」部落解放研究所編 解放出版社
------	------------------------------

事前および事後学習の指示	事前学習：前回授業終了時に次回講義の課題と「キーワード」を指示するので、事前に調べておくこと（推定目安時間1時間） 事後学習：ミニレポート（推定目安時間1時間）
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	差別、人権、偏見、排除、忌避、部落、感染症、地域経営、ソーシャルインクルージョン、ダイバーシティ、ノーマライゼーション、ジェントリフィケーション、地域共生社会、まちづくり、SDGs

講義コード	1540120000
講義名称	産業心理学A <春>
科目英文名	Industrial Psychology A
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	OPSY3400
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
向井 有理子

授業形態	講義	グループワーク
------	----	---------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)	ディスカッション(話し合い)
	協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)		

講義・演習概要	産業心理学は職場や組織における行動を科学的に明らかにする分野です。本講義では、集団や組織、“仕事”にかかわる諸問題にかかわる理論を取り上げ、実際の課題について産業心理学の知見を学びます。
学習(到達)目標	①組織や仕事の場面における課題について産業心理学の知見に基づいて説明できる ②現在の産業場面の諸問題について、産業心理学の知見に基づいて提案ができる

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：産業心理学の考え方や授業で取り上げる内容について
第2回	グループダイナミックス①：集団の中での行動
第3回	グループダイナミックス②：集団での意思決定
第4回	グループダイナミックス③：集団内での協力と摩擦
第5回	グループダイナミックス④：集団間での協力と摩擦
第6回	ワークモチベーション①：モチベーションの理論
第7回	ワークモチベーション②：ワーク・エンゲージメント
第8回	ワークモチベーション③：自己決定の重要性
第9回	人的資源管理①：人事評価
第10回	人的資源管理②：雇用形態の多様化
第11回	現代的課題についてのグループワーク①：組織のダイバーシティ
第12回	キャリア①：キャリア発達
第13回	キャリア②：多様なキャリア
第14回	現代的課題についてのグループワーク②：働き方の今後
第15回	総括試験及びまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	20%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	①最終日に総括課題として試験を実施します。 ②現代的問題に関してはワークのための準備課題と事後の報告課題をレポート課題として実施します。 ③その他、小テストや簡易ワークへの貢献を評価に含みます。
---------------	---

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	田中健吾・高原龍二	産業・組織心理学 TOMORROW	大学オンライン 販売	978-4-8429-1793-1	八千代出版	

事前および事後学習の指示	教科書は事前に読んで理解しておくこと。身近な問題やニュースについて、学習した内容から考えて、自分なりの意見が言えるように整理しておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	集団・モチベーション・キャリア・ダイバーシティ

講義コード	1611060000
講義名称	財務会計論A <春>
科目英文名	Financial Accounting A
開講責任部署	経営学部 経営学科
代表ナンバリングコード	ACCT3401
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 3時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
岩崎 瑛美

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	財務会計は、企業活動の要約として作成される財務諸表を通じて、企業の外部利害関係者にとって意思決定に有用な情報を伝達するために設計された会計です。本講義では、企業が営む主要な活動に焦点を当て、それらの活動の結果がどのように情報へと集約され、財務諸表として表現されるのかを理解します。これにより、財務諸表作成の基礎となる専門知識の習得を目指します。なお、本講義は「財務会計論 (B)」を同時履修することが望ましいです。
学習(到達)目標	本講義では、企業活動の実態がどのように財務会計によって会計情報として整理されるのかを理解し、その情報を用いて企業の財政状態や経営成績を把握できるようになることを目標とします。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	講義概要
第2回	会計の種類と役割
第3回	財務会計のシステムと基本原則
第4回	企業の設立と資金調達
第5回	仕入・生産活動
第6回	販売活動
第7回	利益計算の流れ
第8回	設備投資と研究開発
第9回	資金の管理と運用
第10回	棚卸資産と売上原価
第11回	有形固定資産と減価償却
第12回	無形資産と研究開発費
第13回	税金と配当
第14回	財務諸表の作成と公開
第15回	試験およびまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	試験100%（課題12回各5%、最終課題40%）
---------------	--------------------------

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	桜井久勝・須田一幸	財務会計・入門	大学オンライン販売	978-4-641-22248-9	有斐閣アルマ	最新版

参考文献	桜井久勝. 2025. 『財務会計講義〈第26版〉』中央経済社. その他、必要に応じて指示します。
事前および事後学習の指示	【事前学習】各授業の該当箇所について教科書を読んでください。学内ポータルサイトから講義資料を入手してください。 【事後学習】授業で実施した内容について復習して、課題に取り組んでください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	財務会計、企業会計、制度会計、財務諸表

講義コード	1750320000
講義名称	比較文学A <春>
科目英文名	Comparative Literature A
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT2470
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
岩男 久仁子

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	西洋古典期の早くから「イソップ寓話」は流布していた。様々な形態で文字化され保存されてきている。現在では全世界に広まっている「イソップ寓話」をその初期の形態を中心に他の時代の物（特に日本のイソップ寓話）との比較を行い、イソップ寓話の特質を見ていく。
学習（到達）目標	イソップ伝(イソップの生涯の物語)」を中心に、講義を進めていく。 2000年以上も前から伝わる伝承から現在まで脈々とつながる思想を読み解くとともに、当時の社会背景なども、日本と比較していく。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション どういう視点で行う講義なのか、評価の方法など解説。
第2回	イソップ寓話・伝記 伝承系統図 解説①
第3回	イソップ寓話・伝記 伝承系統図 解説②
第4回	①原典イソップ伝の紹介（第1部）
第5回	②原典イソップ伝の紹介（第1部）
第6回	③原典イソップ伝の紹介（第2部）
第7回	④原典イソップ伝の紹介（第2部）
第8回	⑤原典イソップ伝の紹介（第3部）
第9回	⑥原典イソップ伝の紹介（第4部）
第10回	⑦原典イソップ伝の紹介（第5部）
第11回	⑧原典イソップ伝の紹介（第5部）
第12回	日本に伝播したイソップ寓話(明治期以後)
第13回	難題解決譚 蟻通明神縁起
第14回	難題解決譚 賢者アヒカル物語
第15回	まとめのテスト

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	33%
----	-----

レポート	33%
その他	34%

成績評価の方法（コメント）	<p>レポート33%→こちらが指定するテーマでレポートを必ず提出。未提出の場合は、単位認定しません。 レポートは、提出すれば「合格」ではありません。厳しい条件をクリアしたレポートのみ、レポートの内容を評価します。</p> <p>試験33%→講義の総まとめとして春学期の終わりに行います。試験を受けない場合は、単位認定しません。</p> <p>その他34%→講義中に課す小課題についてのコメント(皆さんの意見・感想等)を11回以上提出すること。それ以下であれば、単位認定しません。</p>
---------------	---

参考文献	<p>『インソップ寓話の世界』 中務哲郎著 ちくま新書 600円 『インソップ寓話集』 中務哲郎訳 岩波文庫 700円</p>
事前および事後学習の指示	<p>詳細は講義中に指示するが、理解を深めるために、「インソップ寓話集」を読む。 「インソップ寓話集」は数多くあるが、手に入るもので良い。</p>
学習時間	<p>事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間</p>

【社会人の方へ】授業資料はWebClassに配布しますので、紙媒体では配布しません。

講義コード	14D6520000
講義名称	コンピュータ論Ⅱ <春>
科目英文名	Computer and Social Information Systems Ⅱ
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	0ICT2410
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 3時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
榎本 光世

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① プログラマーとしての実務経験があるので、プログラム作成現場の体験談を説明可能。また、いわゆる文系出身プログラマーなので、文系受講者にもわかりやすくプログラミングを説明できる。
------	----	--

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	コンピュータを、より深く理解し、より広い用途に効率的に利用するためには、その動作原理について基本的なことから知っておく必要がある。そのためにはその動作原理の数学的な理解が必要である。本講義では、まず、2進数と基数変換から始め、集合、論理演算と続き、確率と統計、そしてデータ構造やアルゴリズムを学習する。これらが特に数学的な要素を多く含む学習範囲であり、これらは必ず成績評価試験に出題する。全ての講義内容は相互に関連性を持つので、一度でも欠席すれば、試験に回答するための知識を得られない可能性が少なくない。
学習(到達)目標	ICTとは何かを理解し、個人(従業員、経営者、消費者)の立場からのICT利用、それに組織体(企業、行政、非営利組織)の利用に関して認識を深め、様々な立場やレベルにおけるICTの利用が社会に与える影響について考察できるようになる。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	講義概要；講義内容の説明と諸注意
第2回	基数表現(2進数、10進数、16進数)、集合と論理演算
第3回	確率と統計、情報量の単位、デジタル化と文字表現
第4回	コンピュータのハードウェア1；電子工学以前のコンピューター、算盤>機械(歯車)式計算機>継電器(リレー)>真空管
第5回	コンピュータのハードウェア2；電子工学黎明期のコンピューター(コンピューターの発明) 半導体>トランジスタ>IC>コンピューター
第6回	電子ネットワーク；コンピューターとデータ通信(専用線、公衆網、インターネット、FTC)
第7回	コンピュータのソフトウェア1；OSとアプリ、ソフトウェア開発(顧客の要求分析)の困難性
第8回	コンピュータのソフトウェア2；ソフトウェア・クライシス；フレドリック・ブルックス『人月の神話』、エドワード・ヨードン『デスマーチ』)
第9回	コンピュータのソフトウェア3；フローチャート、ウォーター・フォール・モデル
第10回	コンピュータのソフトウェア4；いろいろなコンピュータ言語(低水準言語と高水準言語)
第11回	コンピュータのソフトウェア5；コンピューター言語の実際(C言語、VisualBasicのコーディング)

第12回	経営と情報化 コンピューター時代を理解する様々なキーワード(ネオダマ、ゲーム化、クラウド、ビッグ・データ、スマホ)
第13回	社会と情報化 アルビン・トフラー『第三の波』、ニューエコノミー論、ネットワーク革命、デジタル・ディバイド、スマホ依存症、SCOT
第14回	情報社会に関する近年の話題と未来への展望
第15回	予備時間、まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	<p>第1回目の講義中に重要な説明があるので、必ず出席すること。毎回出席を取る。M-Portの「テスト」機能で小テストを何回か実施する。この全てのテストを期限内に提出しない場合には単位習得は困難になる。また、3回以上欠席した場合は、単位を取得できない場合がある。</p> <p>参考書に関しては開講時に指示説明する。必要に応じてPDFファイルを配布する。私語厳禁。講義中にはスマホや携帯電話などの利用を一切認めない。</p> <p>成績不振や欠席多数で単位の修得が危ぶまれる場合、この問い合わせには応じない。</p>
---------------	--

参考文献	遠山暁、他『経営情報論』有斐閣アルマ、 その他参考書は講義中に指示する。
事前および事後学習の指示	前回までの内容を簡単に復習してから講義にのぞむこと。宿題は理由の如何を問わず必ず期限内に提出すること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	17A9340000
講義名称	学科特殊講義-スペイン・ラテンアメリカの世界遺産Ⅰ <春>
科目英文名	Lecture on Special Topic-World Heritage Sites in Spain and Latin America I
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT3440
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 3時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
川嶋 まどか

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)

講義・演習概要	スペイン語は、世界で最も話者数が多い言語のひとつです。スペインやラテンアメリカ諸国など21カ国で公用語とされおり、スペイン語を母語とする話者数は約5億人といわれています。この講義では、スペインおよびラテンアメリカの世界遺産に着目し、世界遺産の登録基準や評価から見える当該国の歴史、社会、文化に関する基礎知識を身に付けることを目的とします。また、映像や音楽などの視聴覚教材を用いることもあります。毎回の講義冒頭で、受講者から提出されるコメントシートの内容や関心、疑問について取り上げ、講義内で紹介、共有し適宜フィードバックします。
学習(到達)目標	スペインおよびラテンアメリカ諸国の歴史や文化、社会について正しく理解し、異文化理解の視座を養うことを目指します。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	シラバスおよび評価基準に関する授業オリエンテーション 授業で扱うスペイン語圏について
第2回	世界遺産に関する基礎知識① 世界遺産の種類：文化遺産、自然遺産、複合遺産、危機遺産、無形文化遺産について
第3回	世界遺産に関する基礎知識② 世界遺産とは何か？世界遺産条約が誕生した背景と登録にいたるプロセス
第4回	スペイン① スペインの世界遺産の概要、世界遺産アルハンブラ宮殿について
第5回	スペイン② イベリア半島におけるレコンキスタ（国土回復運動）の歴史
第6回	スペイン③ スペイン南部アンダルシア地方にみられるキリスト教とイスラム教の融合
第7回	講義のまとめとふり返り レポート課題①
第8回	大航海時代とコロンブスによるアメリカ大陸「発見」
第9回	ペルー①：マチュ・ピチュ歴史保護区とクスコ市街① ペルーの地理と気候、ペルーの世界遺産の概要、世界遺産マチュ・ピチュ歴史保護区、クスコ市街について
第10回	ペルー② 古代アンデス文明とインカ帝国
第11回	ペルー③ 世界遺産チャン・チャン遺跡と危機遺産について

第12回	コスタリカ① コスタリカの地理と気候、コスタリカの世界遺産の概要
第13回	コスタリカ② 世界遺産ディキスの石球のある先コロンブス期首長制集落群とコスタリカの先住民
第14回	コスタリカ③ 持続可能な文化遺産マネジメントを目指して
第15回	講義のまとめとふり返り レポート課題②

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	評価は、2回のレポート提出60%、講義のコメントシートの提出（講義内容のまとめと感想）40%を合計して評価します。講義時間中の私語は慎み、スマートフォンは授業内で指示される課題等で必要な場合を除き使用しないこと。
---------------	--

参考文献	奈良大学文学部世界遺産を考える会(編) 2000『世界遺産学を学ぶ人のために』,世界思想社教学社. 古田陽久2005『世界遺産学のすすめ』,シンクタンクせとうち総合研究機構.
事前および事後学習の指示	毎回の講義で配布するレジュメの整理および講義内容の復習を行ってください。M-Portで指示を出すこともあるので、M-Portを確認してください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	世界遺産、スペイン、ラテンアメリカ、中南米、地域事情

講義コード	17N3280000
講義名称	比較文化研究-近現代の日本と朝鮮半島A <春>
科目英文名	Study of Comparative Cultures -Modern and Contemporary History of Japan-Korea Relations A
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT2460
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
西村 直登

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	19世紀後半から20世紀半ばにかけての戦争と植民地支配の歴史をめぐり、日本と朝鮮半島のあいだでは「過去」をいかに克服するかという論争が現在もなお続いている。いわゆる「歴史認識問題」は、政治やナショナリズム、人びとの記憶と結びつきながら複雑化し、新聞やテレビ、インターネット・SNS等のメディアを通じて増幅され続けている。こうした「過去」をめぐる葛藤や対立、そして交流の歴史は、国家間の問題にとどまらず、両地域に生きる人びとの「現在」の課題でもある。 そこで本講義では、戦前における日本と朝鮮半島の関係史を概観する。その際、両者を単に「比較」するのではなく、たがいの「関係」を重視し、そのなかで生じた人びとの対立・葛藤・交流などの歴史的意味を考察したい。授業では配布レジюмеのみならず、パワーポイントや映像、写真、歴史史料などを積極的に活用することで、歴史的背景への理解を深めるとともに、多角的な歴史的想像力を養うことを目指す。
学習（到達）目標	朝鮮半島の歴史・社会・文化について基本的な知識を習得する。 近現代の日朝・日韓関係について想像力を働かせながら、歴史的に考えることができるようになる。 国際的な諸問題に対して、主体的に物事を考え、相互理解ができるようになる。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	戦争と植民地化① 「開国」をめぐる日本と朝鮮
第3回	戦争と植民地化② 日清戦争と東学農民戦争
第4回	戦争と植民地化③ 日露戦争と朝鮮の「保護国」化
第5回	戦争と植民地化④ 「韓国併合」と義兵戦争
第6回	植民地支配の構造と展開① 「武断政治」と3.1独立運動
第7回	植民地支配の構造と展開② 「文化政治」における「協力」体制
第8回	植民地支配の構造と展開③ 戦時期朝鮮における総動員体制
第9回	植民地支配の構造と展開④ 植民地朝鮮で生きた日本人
第10回	戦前における在日朝鮮人① 朝鮮人の渡日と社会の形成
第11回	戦前における在日朝鮮人② 関東大震災と朝鮮人
第12回	戦前における在日朝鮮人③ 広島・長崎と朝鮮人
第13回	戦前における在日朝鮮人④ 京都と朝鮮人
第14回	戦前における在日朝鮮人⑤ 大阪と朝鮮人
第15回	試験およびまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	0%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	試験：授業のテーマ・事件・人物・用語に関する記述・論述。 その他：授業内容に関するコメントペーパーを作成・提出。 ※出席率が70%未満の場合、試験を受ける資格を失い、成績評価の対象としません。
---------------	--

参考文献	『日韓交流の歴史：先史から現代まで』（明石書店、2007年） 『植民地朝鮮：その現実と解放への道』（東京堂出版、2011年） 『在日朝鮮人：歴史と現在』（岩波新書、2015年） 『在日コリアンの歴史を歩く：未来世代のためのガイドブック』（彩流社、2017年） 『調べ・考え・歩く 日韓交流の歴史』（明石書店、2020年） 『日韓の歴史をたどる：支配と抑圧、朝鮮蔑視観の実相』（新日本出版社、2021年） 『新・未来をひらく歴史：東アジア3国の近現代史』（高文研、2025年）
事前および事後学習の指示	毎回授業で配布するレジュメや参考資料、授業で紹介した参考文献・URLを読んだり調べたりしておいてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	日本、朝鮮、韓国、在日朝鮮人、在日コリアン、歴史、社会、文化、戦争、植民地支配

講義コード	1N05060000
講義名称	社会保障法A <春>
科目英文名	Social Security Law A
開講責任部署	法学部 法律学科
代表ナンバリングコード	0LAW3470
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
楠本 敏之

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--

講義・演習概要	社会保障法全体にわたる総論的なテーマを最初の数回にわたって取り上げた後、年金、医療保障、社会手当といった個別分野についてより深くわかりやすく解説します。その中で随時、社会保障法上の今日的な課題・問題についても検討していきます。
学習（到達）目標	国民の生活にきわめて密着した分野である社会保障法について、その重要な基本的事項を正確に理解することを目的とします。より具体的には、各社会保障法の発展過程、法体系及び基本原理の理解に基づいて、個別の法制度についての基本的知識を習得できるようにします。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス～講義の進め方・方針など
第2回	社会保障法総論（１）～社会保障を取り巻く現在の状況と社会保障の意義など
第3回	社会保障法総論（２）～社会保障法の歴史と日本の社会保障法制度の現在までの発展の過程など
第4回	社会保障法総論（３）～社会保障の保障方法など
第5回	社会保障法総論（４）～社会保障の理論など
第6回	年金（１）～年金制度の意義・役割・機能、沿革など
第7回	年金（２）～国民年金法の具体的仕組みなど
第8回	年金（３）～厚生年金法の具体的仕組みなど
第9回	年金（４）～その他の年金制度など
第10回	医療保障（１）～医療保険法の意義、沿革・体系、医療供給体制など
第11回	医療保障（２）～医療保険法の具体的仕組み①など
第12回	医療保障（３）～医療保険法の具体的仕組み②など
第13回	医療保障（４）～その他の医療保障など
第14回	社会手当など
第15回	まとめと今後の課題

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%

その他	
-----	--

成績評価の方法 (コメント)	備考 学期末の2回のレポートのみで評価します(各50%)。ただ、毎回の授業に関し定められた形式でM-Portを通じて課題を提出することを義務とし、その提出が11回以上の者のみが成績評価の対象となります。
-------------------	---

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	加藤智章ほか	社会保障法(有斐閣アルマ・第8版)	大学オンライン販売	9784641222113	有斐閣	社会保障法Bと共通

参考文献	岩村正彦編『社会保障判例百選(第6版)』(有斐閣)
事前および事後学習の指示	社会保障法は、体系的に理解することが特に重要な法分野です。事前に指示されたテキストの該当部分や配布された判例等の資料については、読んだ上で講義に臨み、事後には、知識・理解の定着のために、各講義の際に配布されたレジュメを再確認し、丁寧に復習するようにしてください。
学習時間	事前学習時間:30時間 事後学習時間:30時間
キーワード	社会保障、健康保険、年金、少子高齢化